

書道部 書道パフォーマンス甲子園初出場

日本で一番アツい6分間「書志貫徹」で堂々の12位

千西一遇

第130号

発行

2026年

9月3日(木)

上田西高校
新聞委員会
編集局

編集局長：菊池ひとみ

新聞委員長：斎藤 瑠心

内藤 寧音
小林 未侑



第19回書道パフォーマンス選手権大会で初出場の上田西高校が披露した「未完成の美」 撮影＝内藤 寧音

解説も絶賛 迫力満点の大筆

今回のパフォーマンスでは、中央の「美」を揮毫した副部長の塚田真心さんが大筆を2本同時に使用する西高ならではの演出「合筆」を披露。オンラインで配信された動画の解説者からは「美」の太さや力強さについて称賛があり、合筆時には「大筆う本ー」と驚きの声が上がった。



解説も絶賛した大筆のパフォーマンス中でも大筆2本の合筆は迫力満点だった

塚田さんは「私たちもパフォーマンスの良きところとして合筆を挙げていたため、評価されたことはとても嬉しかったです。小林未侑さんと2人で息を合わせて題字の最後の一画としてふさわしい線を引けるよう、人間は未完成だから美しいという人間らしさへの思いを込めました」と話した。また、副部長は「大筆は1本7キロの重さがあり、それを2本同時に持つのは重く、練習でも苦戦しましたが、本番では成功し、それを評価していただきとても嬉しいです」と話した。何度も練習を重ね、息を合わせたことで、本番では迫力のある一画を書き上げた。

(内藤 寧音)



演技後、審査員からの講評を聞く 黛ひなた部長

今回の全国大会でパフォーマンスしたテーマは「未完成の美」。部長の黛ひなたさんは「A-I」と考えた所から始まったと話した。最初は未完成の美とはまったく違う作品を考えようとしたが、今年度新任職員として赴任した顧問の巻山豊偉先生からの提案で、作品と制作の視点を交え、出場締め切り2週間前に字や構成など全ての路線を変更した。巻山先生は「今の世の中A-Iで溢れていて、人間に出来ることは何か?と部員で話し合い、一生死ぬまで完成系がない所が

A-I 社会における人間の良さを表現

た」と話した。

人間の素晴らしさであるということがテーマ決定に繋がった」と語った。審査員を務めた小林直哉先生は「最初に活字体をわざと出しているところに、人間が書く書に変わる黒い壁を割って、そして書に入っていくというテーマ性というのが大変うまく表現できていました」と称賛した。

計11人で紙面に向き合い、6分間のパフォーマンスを完成させた。今までは最優秀学生が全てを考え、作品を作り上げていたがこの紙面は3学年全ての部員が案を出し、部員全員の思いが込められた作品となった。

(斎藤 瑠心・内藤 寧音)

多くの人に感謝

書道パフォーマンス甲子園出場にあたっては練習場所の確保に男女バスケットボール部やバドミントン部など多くの部活動が協力。放送委員会顧問の小林稜弥先生やバスの運転、収録の関係者、担当した長井聡先生など多くの先生方も支えた。

書道部員や顧問は口々に「感謝の気持ち」を述べた。支えてくれたすべての人への感謝の気持ちを胸に本番では全員のパフォーマンスを披露。多くの人の支えが形として現れた。

(内藤 寧音)

紙面を引き締めた造像記と漢文

今回の作品は、上田西の強みであり伝統である造像記を漢文と組み合わせるという新たな挑戦を行なった。変化を求め今年には様々な書体に取り組んだが、より強く伝えたい部分は西高らしく造像記を使用。

造像記とは「北魏楷書」といい、書体の種類としては小中学校などで習った楷書と同様である。しかし、方筆が全く違い起筆や折れを角ばらせて思い

きり鋭く強く直線的な線を描くことが特徴的な書体である。そんな造像記と漢文の文を書き上げたのは3年の小林未侑さん。小林さんは1年生から造像記の練習に取り組んだ。「力強さと鋭さ、かつこよさがある中に書道にしか出せない綺麗さ」とエネルギィを感じられる」と造像記の魅力を語った。使用されたのは「人之可能性 如曉光 花開 無窮」という漢文。この漢文は

書道部員が考えたオリジナルの造像だ。「人の可能性は曉光のように無限に花開く」と訳す。

小林さんはこれまでに「紙面中央の、未完成の美」に目が行きがちだが、その下に造像記のよつた強い文字があることで紙面がより締まった印象になるため、丁寧に一角一画を書くというよりは、線の流れを意識して、墨を周りにわざと飛ばす飛墨という技法を

使つてより躍動感を演出した」と振り返った。「造像記を任せられた重圧に耐えられなくなりそうな時、もすつとあった」という

(斎藤 瑠心)

今年度より巻山墨偉先生が顧問に

今年度、新たに上田西高校に赴任し書道部の顧問となった巻山墨偉先生。部が目指してきた書道パフォーマンス甲子園初出場に導いた。「部の礎を作ってくれた白井先生に本当に感謝しかないです。僕はそれを引き継いで、甲子園に連れて行つ



今年度上田に高校に赴任し書道部顧問となった巻山墨偉先生

これまで上田西高校書道部を支え、現在は前顧問として部員たちの活動を見守っている白井先生。生徒一人一人の「やりたい」という思いを大切にしながら書道部を支えてきた。

書道部が書道パフォーマンスに本格的に取り組み始めたのは、約4年前。当時は部員数が少なく、廃部の可能性もあった。しかし、やり方がわからなかったため、大学の先輩が指導し、全国トップクラスの实力を誇る松

た。そんな中、当時の部員から「書道パフォーマンスをやりたい」という声があがったという。白井先生は生徒の思いに添え、「やりたいって言われたので、やれるように頑張りました」と回顧。

その後、地域での発表や各種大会への挑戦を繰り返して、書道パフォーマンスグランプリ東海大会で優勝するところまで部活が成長した。0から始めた書道パフォーマンス。部員たちの努力と周囲の支えによって、4度目の挑戦で甲子園初出場を果たした。

2013年、2015年には野球部長として甲子園も経験している白井先生。甲子園と書道パフォーマンス甲子園両方のパスを持っているのは白井先生だけだろつ。

今回のパフォーマンスでは、上田西を含む複数の学校がAーをテーマとして設定する中、あえてAーにまつ言葉彙を紙面に入れず、「全て人間に關するものや人間らしさを書いた」とこだわった。白井先生の大学の後輩にあたる巻山先生。「D」の意志を受け継いだ指導者がこれからの上田西高校書道部を牽引していく。

(斎藤 瑠心)



メインである中央の「未完成の美」の下に揮毫された造像記

前顧問白井先生語る 0から始まった書道パフォーマンス



書道パフォーマンスをはじめた経緯を話す前顧問の白井道彦先生

2013年、2015年には野球部長として甲子園も経験している白井先生。甲子園と書道パフォーマンス甲子園両方のパスを持っているのは白井先生だけだろつ。

(内藤 寧音)



特別審査員を務めた芸能人のファーストサマーウイカさん

パフォーマンスを作り上げる力が巻山先生の指導でさらにパワーアップしたと評判だ。

巻山先生自身も全国を決めた勝因を「新井上田西高校。引き継いできた伝統ももちろんあるんですが、そこに僕の血が入ったことによって新しいさらにパワーアップした上田西高校になったことが1番のきっかけかなと思います」と分析。

今回のパフォーマンスでは、上田西を含む複数の学校がAーをテーマとして設定する中、あえてAーにまつ言葉彙を紙面に入れず、「全て人間に關するものや人間らしさを書いた」とこだわった。白井先生の大学の後輩にあたる巻山先生。「D」の意志を受け継いだ指導者がこれからの上田西高校書道部を牽引していく。

(斎藤 瑠心)

特別審査員にファーストサマーウイカさん

書道パフォーマンス甲子園では、通常の審査員に加えて、書道や芸術などさまざまな分野で活躍する人物が特別審査員を務める。今大会は、約10年の書道経験を持つ芸能人のファーストサマーウイカさんが特別審査員に選ばれた。

開催式の挨拶では「書は何千年も前から残っています。書は残ります。そして書道パフォーマンスは人の心に残り続けるものだと思います」と話したファーストサマーウイカさん。今日失敗する

芸能人からの審査を受けた書道部員からは「書道の知識もたくさん持っている方だからそんな方に見てもらって嬉しかった」という声が聞かれた。

(斎藤 瑠心)

鬼越トマホークも書道部にエール



SBCの夢テレビの収録で上田西高校を訪れた鬼越トマホークの2人、蒲生アナと書道部員たち

6月26日(金)、テレビ番組の取材で人気お笑い芸人鬼越トマホークが上田西高校を訪れ、書道パフォーマンス甲子園への出場が決定した直後の本校書道部と共演した。収録では、書道部が書道パフォーマンスを披露し、鬼越トマホークの2人が見学。

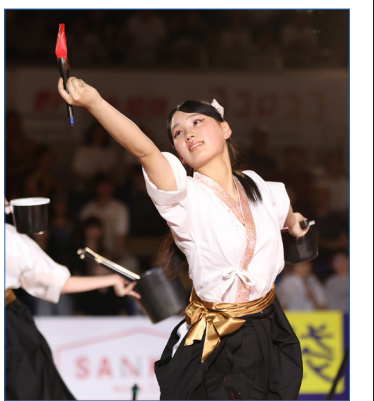
初めて書道パフォーマンスを間近で見たという金ちゃん「普通に書くだけなのかなと思ったけど、あんなにクオリティの高いパフォーマンスにド肝を抜かれた」と驚きを語った。良ちゃんも「ダンスと書道が連動しているような庄巻のパフォーマンスだった」と感想を述べた。パフォーマンスの終盤には、鬼越トマホークの2人も大きな筆を手に取り、作品の最後の一画を書き完成させた。最後に、全国大会を控える書道部に向けて2人からメッセージが送られた。良ちゃんは「今日のようないざこざな大会に生かすような気がする」と話し、金ちゃんも「全国大会はすぐ大変だと思うけど、楽しんでほしい」とエールを送った。



↑ダンスでパフォーマンスを彩った2年の北村優奈さん(左)と竹田遥音さん
プログラムで動くAIとは異なり、人間らしい表情や激しさ、しなやかさを意識したパフォーマンスを披露した

↑行書を担当した3年の田中愛結花さん
華や蕾という字を通して未完成の美しさや成長過程を表現した





↑ 篆書を担当した2年の宮城知穂さん
引首印で「成長」を表現した

